

平成24年北栄町議会議員研修報告書

1	日	平成24年7月18日(水)～20	日(金)
2	調査地	滋賀県湖南市 ・ 長野県飯田	市
3	調査内容	(内 容)	(場 所)
		(1)障がい者雇用の促進について	カルビー・イトーク(株)
		(2)発達支援システムについて	湖南市健康福祉部 社会福祉課
		(3)グリーンツーリズムの取り組み	南信州観光公社
		(4)民泊体験+農業体験	太田農園ほか
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1)障がい者雇用の促進について</p> <p>湖南市では、カルビーイトークやTOTOのような障害者の就労に理解のある受け入れ企業が多く、本町の場合難しい側面もあるが、受け入れ先の開拓が求められる。また、行政を中心とした就労支援の連携・協力体制の構築が必要と感じた。</p> <hr/> <p>(2)発達支援システムについて</p> <p>湖南市では、一人一人のニーズに応じた支援を基本において、障がいの発見から就労を目指した継続性(情報連携ノート、ここあいパスポートなど)のある支援を行っている。また、縦割り行政の弊害をなくし、関係部署・諸団体との連携を進めるうえで、専門的指導を行える発達支援センターが重要な役割を果たしている。</p> <p>以上のことから、障害のある人が生き生きと生活できるように支援行ううえで、行政の役割が十二分に発揮されていることを伺い、本町においてもひとりひとりのニーズに応えられる支援体制の構築が求められていると感じた。</p>	
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(3)グリーンツーリズムの取り組みについて</p> <p>南信州という広域でとりくむ体験型観光による地域振興を目的に設立された観光公社は、体験プログラム・体験旅行のコーディネート、体験プログラムの企画開発・受け入れ指導、一般旅行業務、観光案内所の運営など、体験型観光の企画から受け入れ先の開拓まで、地域振興の要となっている。こうした観光公社の役割を担う組織が必要であると感じた。</p> <hr/> <p>(4)民泊体験+農業体験</p> <p>ありのままの姿の農家で、家庭料理のおもてなしであり、そこに現代人が魅力を感じて、多くの宿泊がある。北栄町でも、決して不可能ではないと感じた。</p> <p>課題としては、受け入れ先(農家など)をどうつくるかということもあるのではないかと、可能性のある農家などに先進地での体験研修の場を行政から提供して、意欲を引き出すことも必要と感じた。</p> <hr/> <p>(5)まとめ</p> <p>湖南市での発達支援システムについての研修は、先進地と本町の取り組みの格差を強く感じた。また、飯田市の体験型観光は、北栄町において農業を基幹産業として継続・発展させるための取り組みとして大変参考になるもので、一つ一つの課題を克服する実践が重要と感じた。</p>	

